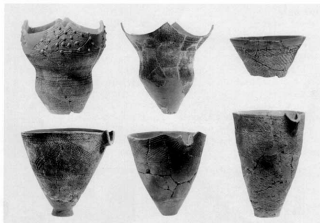


まつどミュージアム

No. 3・4 (合併号) 1995年(平成7年)3月



幸田貝塚の土器

平成6年6月、松戸市幸田貝塚コトコトベツツの出土品が一括して国の重要文化財に指定されました。いうまでもなく、縄文時代を研究する上で高い学術的価値が認められてのことです。

幸田貝塚からは縄文時代前期前半(およそ6000年前)にさかんにつくられた関山式土器セキヤマシキが出土しています。この関山式土器には幾種類もの縄文が文様として使われており、またこの時期に煮炊き用の深鉢形土器フカハチガタのほかに、鉢形土器ハチガタやミニチャー土器ミニチャーなど煮炊き以外の用途の土器ツクリモノが加わり、大形の土器もつくられるようになります。関山式土器の後半期になると、口縁部クチノヘに片口と呼ばれる注ぎ口をもった土器がたくさんつくられるようになります。

展 覧 会

松戸市立博物館では常設展示のほかに、毎年、特定のテーマに基づいた展覧会を企画・開催しています。また、館蔵資料を中心にできるだけ多くの資料を公開する資料展示なども開催しています。

以下、平成6年度に開催した新収蔵品展・企画展・特別展・巡回展ならびに展覧会を紹介します。

■新収蔵品展

松戸市立博物館では、松戸市域の歴史に関係の深い資料を収集しており、毎年これら資料を展示公開しています。

今年度は、開館までに購入や寄贈などによってあらたに館蔵品となった考古・歴史・民俗関係資料を公開展示しました。

会期：平成6年4月29日(金)～6月5日(日)

展示点数：48件79点

■企画展「救いの民俗—地獄極楽冥土の旅路」

本企画展は、地獄という恐ろしい世界に対する人々の「恐れ」とそこからの「救い」をテーマとしています。

市内周辺の寺院が所蔵する地獄絵や閻魔像など地獄を題材とした資料によって、先人たちの地獄への思いを表現しました。とくに女人の血の池地獄からの救済を説いた血盆経関係の資料も展示し、「女人の救い」にも焦点を当ててみました。

会期：平成6年7月23日(土)～9月4日(日)

展示点数：74点

展示解説会：平成6年8月7日(日)・21日(日)・9月4日(日)

■特別展「馬と牧—かつて松戸は牧場だった」

現在団地の展開する松戸市内東部の台地は明治2年まで、北は野田市から南は千葉市まで広がる徳川幕府の馬の放牧場「小金牧」の一部でした。この牧場には最盛期に5000頭を超える馬が放牧されており、人々は馬と深い関わりをもって生活していました。そのような歴史を考えてもらうために、馬と牧に関する歴史資料を集めて展示しました。

会期：平成6年10月8日(土)～11月27日(日)

展示点数：129点

展示解説会：10月16日(日)・11月13日(日)



■巡回展「千葉県文化財センター創立20周年記念出土遺物展—掘り起こされた房総の歴史」

財団法人千葉県文化財センターの創立20周年を記念して、長年にわたる発掘調査によって出土した数々の遺物のなかから、県内で初めて発見された重要な資料多数も含め、各時代の代表的なものを展示して、房総の原始・古代から中世までの歴史と文化についての理解を深めてもらうために、本巡回展を開催しました。

主催：財団法人千葉県文化財センター
 後援：松戸市教育委員会
 会期：平成6年12月3日(土)～12月18日(日)
 展示点数：約400点



■国重要文化財指定記念「幸田貝塚出土品展」

幸田貝塚は縄文時代前期前中期における日本有数の大規模な遺跡として、また質量ともに豊富な当時の生活用具の数々は縄文時代の研究に、欠くことのできない重要資料として知られています。こうした学術的価値が認められ、平成6年6月28日付けで出土品266点が一括して国の重要文化財に指定されました。本展覧会はこれを記念して、指定品266点を全点展示公開しました。

会期：平成7年1月15日(日)～2月12日(日)



■田中寅三展—松戸に根をおろした白馬会の画家

黒田清輝・久米柱一郎の門下として白馬会に属し、大正から昭和36年の没年まで松戸に在住して千葉高等園芸学校で園画を教えるかたわら作家活動を続けた田中寅三の画業のすべてを紹介しました。

主催：松戸市教育委員会〔美術館準備室〕
 会期：平成7年2月25日(土)～3月26日(日)
 展示点数：143点



講座・講演会

松戸市立博物館では、考古・歴史・民俗学関連の講座や講演会を開催しています。平成6年度は、次のような講座・講演会を開催しました。

■古文書講座

中世・近世の文書の解説を通して、幅広い歴史の見方を身につけてもらうために開催したものです。

(1) 古文書を読む〔中世編〕

戦国時代の松戸市域にかかわる文書（高城氏関係文書）をテキストにして、解説とその歴史的背景について学びました。

開催日：平成6年5月21日～7月30日（隔週土曜日・全6回）

講師：中山文人（館学芸員）

(2) 近世史料を読む〔中級編〕

近世文書（「植崎九八郎上書」「不動智神抄録」「白川侯伝心録」）をテキストにして、解説と近世の歴史について学びました。

開催日：平成6年9月28日～12月7日（毎週水曜日・全10回）

講師：波邊一郎氏（筑波大学名誉教授）



最終講座を終えて講師をかこんで記念撮影

(3) 古文書を読む〔近世編〕

初心者を対象に、近世の松戸市域にかかわる文書（天保15年「離縁状之事」など）をテキストにして、解説とその時代背景を学びました。

開催日：平成7年1月22日～3月19日（隔週日曜日・全5回）

講師：小高昭一（館学芸員）

■開催1周年記念講演「中世民衆の姿」

生産・流通・芸能活動など、農業活動以外の中世民衆のさまざまな活動の実態を具体的に描き出すことを通して、従来の農業や農民中心の見方からはうかがうことのできなかった中世社会のあり方をわかりやすく講演していただきました。

開催日：4月29日（金・みどりの日）

会場：森のホール21（小ホール）

講師：網野善彦氏（神奈川大学短期大学部教授）



250人以上の熱心な聴衆を前に

■特別展記念講演会「馬と人との交渉史」

日本の古代から近代にいたるまで、馬と人との関係がどのように変化してきたのを概観し、とくに近世を中心に、佐倉・小金・嶺岡牧など幕府牧や南部藩営牧などの実態を通して、馬と武士・農民との関係について講演していただきました。

開催日：平成6年10月30日（日）

講師：林英夫氏（日本福祉大学客員教授）

■特別講演「最新海外考古事情」

歴史や文化に対する視野を広げてもらうために、海外での豊富な調査経験をもつ気鋭の研究者を招き、東南ヨーロッパ・西アジア・

東アジアの最新の考古情報について講演していただきました。

開催日：平成7年2月5日(日)

(1)「東南ヨーロッパの『テル』を掘る—ブルガリアの調査から—」

ブルガリアのデッドヴォ遺跡の発掘調査の成果から、新石器時代から青銅器時代のバルカン半島の歴史を講演していただきました。

講師：禿 仁志氏(東海大学助教授)

(2)「『村』から『町』へ、『町』から『都市』へ—西アジアの調査から—」

新石器時代に農耕・牧畜の発生した地域である西アジアの先史時代の自然環境から説きおこし、「村」の発生から「都市」の誕生にいたる歴史を講演していただきました。

講師：常木 晃氏(筑波大学助教授)

(3)「韓国の前方後円墳—朝鮮半島の調査から—」

日本独自の墳墓といわれてきた前方後円墳が最近韓国で相次いで発見されているといわれる問題について、古代における日韓の文化交流を踏まえて講演していただきました。

講師：中山清隆氏(女子聖学院短期大学講師)

■学芸員定期講演会

学芸員の日ごろの研究成果を発表する場として、平成5年度に引き続き隔月で開催しました。

第5回「『誤解』と『正解』—博物館的世界の『正しい』読み方—」

博物館における展示は、みる側からそれを構成する側の意図とは異なった読み方＝「誤解」をされやすい。この「誤解」を展示に対する解釈の仕方のひとつとしてとらえる視点から、展示のさまざまな解釈のあり方を論じました。

開催日：平成6年5月15日(日)

講師：山田尚彦(館学芸員)

第6回「水戸道中糶業毛—金町松戸関所の巻—
徳川幕府が設けた水戸道中の歴史を、絵

図・地誌などの江戸時代の史料を中心に、日本橋から千住・葛飾新宿を経て金町関所までの旧道・沿道の旧所名跡の現況写真もまじえながら解説しました。

開催日：平成6年7月10日(日)

講師：小高昭一(館学芸員)

第7回「地下の『正倉院文書』—墨書土器が語る古代の松戸—」

文書や木簡とならんで古代の人々の生活を知る重要な手がかりとなる墨書土器のもつ情報から古代の社会を概観するとともに、市内の墨書土器出土遺跡である小野遺跡と坂花遺跡の性格を推定しました。

開催日：平成6年9月18日(日)

講師：松尾昌彦(館学芸員)

第8回「地獄の救い」

地獄という仏教によって作り出された死後の世界について、先人たちがそれをどのように恐れ、そこからの救いを求める信仰がどのように展開したかを、血の池地獄からの救いを求める血盆経の信仰に焦点をあてて解説しました。

開催日：平成6年11月6日(日)

講師：青木俊也(館学芸員)

第9回「過去帳の話」

市内の本土寺が所蔵する「本土寺過去帳」の性格を考えるために、古代末にはじまり近世寺院で広く普及するにいたる過去帳の歴史的な変遷の過程を検討するなかから、その歴史的な性格を考えました。

開催日：平成7年1月22日(日)

講師：中山文人(館学芸員)

第10回「板碑の話」

宗教的視点から扱われることの多い板碑を、信仰の対象として製作された「もの」としてとらえ、その構成要素のなかで形態的特徴や変遷が明確な墓座に焦点をあてて、板碑の生産と流通の問題を考えました。

開催日：平成7年3月19日(日)

講師：倉田恵津子(館学芸員)

体験学習・その他

映像による歴史教室

歴史・文化に対する理解を深めてもらうために、歴史・文化に関するビデオ映像を上映しました。

開催日・タイトル：

8月6日(土)「天平の秘宝」

8月7日(日)「神鏡」

8月13日(土)「絵巻切断」

8月14日(日)「謎の絵師」

夏休み歴史教室「もので知る縄文時代のくらし」

野外展示の縄文時代復元竪穴住居のなかで、小学生を対象に、体験もまじえながら縄文時代の衣食住について学びました。

開催日：平成6年8月13日(土)・14日(日)

講師：古里節夫・倉田恵津子(館学芸員)



竪穴の天井にはものを転がさせる欄が彫ってあります

博物館館内公開

博物館のさまざまな活動について市民に理解を深めてもらうために、日ごろ公開していない収蔵庫・展示庫・作業室などを見学してもらいました。

開催日：平成7年2月11日(土)

解説：館学芸員

縄文時代の布をつくろう—原料の採集から編布まで—

一般を対象に、縄文時代の布の原料の一つであるカラムシの刈り取りから、繊維の取り

出し、糸作り、アンギン編みの完成まで、一連の製作工程の体験学習を行いました。

開催日：平成6年7月23日(土)・30日

(土)・31日(日)・8月6日(土)・

21日(日)

講師：倉田恵津子(館学芸員)



カラムシの室から繊維をとりだします

縄文布をつくろう—糸巻きから編布まで—夏休み中の小学生を対象に、糸巻きからアンギン編みの完成にいたるまでの製作工程を体験学習を行いました。

開催日：平成6年8月12日(金)

講師：倉田恵津子(館学芸員)



アンギン糸を前に真刺な様

稲をつくる

小学校高学年を対象に、21世紀の森と広場に設けられた水田を利用して、田植えから稲刈り、脱穀まで、一連の稲作り作業を体験学習しました。

開催日：平成6年5月21日(土)・5月29日(日)・8月20日(土)・10月1日(土)・10月8日(土)・11月12日(土)
 講師：相田伊沙美氏(技術指導)、青木俊也・羽佐田真一(館学芸員)



福刈り—今年は何作？

■布を織る

紐状に裂いた木綿布を、あらかじめ用意した縦糸のかかっている機に横糸として織り込んでいく裂き織りの体験を実施しました。

開催日：一般対象 平成6年5月15日～7月13日(毎週水曜日)・平成7年1月24日～3月14日(毎週火曜日)
 小学校高学年対象 平成6年7月26日～28日・8月2日～4日

講師：青木俊也(館学芸員)



心をこめて織りあげます

■縄文土器をつくろう

中学生以上を対象に、成形から文様付け・焼成まで、縄文土器の製作体験を通して、歴史や文化に対する見方を深めてもらうために実施しました。

開催日：平成6年11月13日(日)・19日(土)・20日(日)・27日(日)・12月18日(日)
 講師：大塚広往氏(市教育委員会社会教育課主査)



編をうけて焼きあがる土器

■夏休み子ども歴史相談室

夏休み期間の小・中学生の学習活動を支援しその意欲を高めるために、地域に関する情報だけでなく、日本や世界の歴史・文化に関する情報を提供することを目的に、質問を受け付け、学芸員が回答・説明しました。

開催日：8月23日(火)～25日(木)

相談員：学芸員全員

■ハイビジョンシアター

講堂の100インチの大画面で、月変わりて毎日定時に歴史や文化にかかわるハイビジョン映像を上映しています。今年度の上映作品は以下の通りです。

- 4月 皆金色の極楽浄土／中尊寺・金色堂
- 5月 北京千年王城
- 6月 大英博物館／ギリシャの美
- 7月 至芸／阿波踊り
- 8月 美の回廊をゆく／アンコールワット
- 9月 美の回廊をゆく／ベトナム・フエ
- 10月 美の回廊をゆく／聖地スリランカ
- 11月 美の回廊をゆく／アジャンター
- 12月 世界やきもの紀行／タイの旅
- 1月 黄金のエジプト王朝／ファラオの夢
- 2月 慶州／新羅千年の都
- 3月 大英博物館／メソポタミアの美

■平成7年2月17日(金)

学芸員の種についての説明を真剣に聞く高木小学校1年生のこどもたち。その食い入るような眼差しがとても印象的でした。



彼らが使っていた国語の教科書(教育出版『新こくご1下』)に「天に上ったおけやさん」(水谷章三著)というお話がのっていました。

むかしむかし、あるところに、ひとりのおけやさんがすんでいました。

ある日のこと、おけやさんは、大きな大きなふろおけのたがをしめていました。ところが、なんのはずみか、そのふといたががピーンとはじけたからたまりません。(以下省略)

プラスチックや金属の容器しか見たことがなく、木で作られた桶を見たことがないこどもたちに、「たが」とはどういうものかわかるはずがありません。なんとかこどもたちに桶というものを見せてやりたいと思案された先生は、博物館を訪ねられたのです。

博物館で所蔵する資料の中から、いろいろな形の桶をこどもたちは見ることができました。用途によって大きさや形にさまざまな工夫がこらされていること、そしてもちろんたがとはどんなものか、こどもたちは自分の目で確かめることができたのです。

こんな目の輝きをいつまでも失わないでほしい、と私たちは思います。(S.H.)

■資料展「館蔵錦絵展」

歌川広重の「名所江戸百景」シリーズや橋本周延の「千代田之御表」シリーズをはじめ松戸にかかわる錦絵27点を公開します。

会期：平成7年4月29日～5月28日

■企画展「種と魚」

農民が行ってきた漁撈や狩猟の技術を紹介しながら、複数の生業技術の上に成り立つ生業維持活動としての稲作について考えます。

会期：平成7年7月22日～9月3日

■特別展「古墳時代の飾り馬」

馬形埴輪や馬具から導入期の馬の利用形態と馬がわが国に定着していく過程をたどり、人と馬との関係を明らかにしていきます。

会期：平成7年10月14日～12月3日

■展覧会「デザインの歴史時代」

千葉大学工学部の前身・東京高等工芸学校の指導者たちの多彩なデザイン活動をその作品を通して紹介します。

主催：松戸市教育委員会 [美術館準備室]

会期：平成8年1月14日～3月24日

■利用案内

■開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 月曜日(ただし祝日にあたるときはその翌日)

館内整理日(毎月第4金曜日)

■年末年始(2月28日～1月4日)

■観覧料

	個人	団体
一般	300円	240円
高校生・大学生	150円	100円
小学生・中学生	100円	60円

企画展・特別展に限り観覧金をいただくことがあります。

(小学生未満は無料・団体は20人以上)

■交通 新京成線八柱駅・西武東野線新八柱駅下車、新京成バス小全駅団地行「公園中央口」下車

■まつどミュージアム No.3-4 (合併号)

発行日 1995年(平成7年)3月31日

編集・発行◎ 松戸市立博物館

〒270 千葉県松戸市千駄堀671

☎0473-84-8181